

1 単元名 「『おおきなかぶ』劇場」－『おおきなかぶ』－

2 単元について

(1) 単元の概要

学習指導要領では、次のような位置づけになっている。

【第 1 学年及び第 2 学年】

〔「C 読むこと」の指導事項〕

(1) ア 語のまとまりや言葉の響きなどに気をつけて音読すること。

イ 時間的な順序や事柄の順序などを考えながら内容の大体を読むこと。

ウ 場面の様子について、登場人物の行動を中心に想像を広げながら読むこと。

〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕

(1) イ (ウ) 言葉には、意味による語句のまとまりがあることに気付くこと。

本単元では、「『おおきなかぶ』を読み、劇化する」という言語活動を設定した。児童は、第 1 次で学習材『おおきなかぶ』と出会い、学習の見通しをもつ。第 2 次では、音読や友達への読み聞かせを通して、なかなか抜けないかぶを抜くために登場人物が増えていく様子を読み取っていく。さらに、役割演技を通して、場面にあわせた登場人物の台詞を想像していく。第 3 次では、役割を分担し、劇を行う。第 2 次までに考えた台詞などを取り入れながら、グループの中で分担し劇を行う。

本単元の学習材となる『おおきなかぶ』の 1 つ目の特徴は、「うんとこしょ、どっこいしょ。」の言葉が繰り返されているところである。子どもたちにとって、リズムがよく、つい口ずさんでしまうような言葉である。2 つ目の特徴は、かぶを引っぱる人の数が増えているにもかかわらず、なかなか抜けないかぶが、小さなねずみが来たところやと抜けたところである。読み進めながら、増えたら今度は抜けるかなと期待をしながら、読んでいくと考えられる。3 つ目の特徴は、日常には考えられない大きなかぶができたところである。なかなか抜けないかぶは、どのようなかぶなのか子どもたちは想像をふくらませて読む楽しさがあると考ええる。

上記した学習材の特徴を生かして、本単元では繰り返し音読をしたり、友達と読み聞かせ合う活動をしたりとすることを通して、登場人物のしたことや登場人物が出てくる順序を正しく理解し、場面の様子について想像を広げて読む力を付けていきたい。また、物語から読み取ったことや想像をしたことを入れながら、登場人物になりきって役割演技をして表現する力を付けたいと考える。

児童の意欲を喚起し目的をもった学習活動にするため、登場人物になりきる際はお面をつけて行っていきたい。お面を使用して活動することで、児童一人一人が「やってみたい」「もっと読みたい」と思うようになったり、登場人物になりきったりする手助けになると考える。登場人物になりきるという目的を設定することで、出来事を正確に理解したり、言動に着目したりする必要性を感じさせ、目的をもった学習活動となるようにしたい。

(2) 単元の観点別目標

関心・意欲・態度：場面の様子や登場人物の気持ちを想像しながら、進んで役割演技を行い、楽しんで読もうとしている。

読 む こ と：場面の様子や登場人物の気持ちについて、登場人物の言動を中心に想像を広げながら読むことができる。

伝統的な言語文化と：言葉には、意味による語句のまとまりがあることに気付くことができる。

国語の特質に関する事項

(3) 児童の実態と指導上の留意点及び合理的配慮

在籍 34 名

本学級の児童は、入学して以来、『くまさんとありさんのごあいさつ』や『けむりのきしゃ』などの簡単なお話に触れてきた。『くまさんとありさんのごあいさつ』では、挿絵から熊は大きいと想像をふくらませたり、文字の大きさの違いから声の大きさを変えたりするなどしながら、取り組んできた。また、『けむりのきしゃ』では、おじいさんや流れ星になって、気持ちを想像したり、長音、促音の書き方やかぎかっこの使い方などを学んだりしてきた。これまでは、読み方を工夫して音読をし、文を読むことを楽しんでいった。だが、これまでの文は、少ない行数だったものが、『おおきなかぶ』で初めて少し長い文章に出会うことになる。よって、少し長い文であっても抵抗なく向き合えるようにしていきたい。そのために、「うんとこしょ、どっこいしょ。」という言葉の繰り返しに着目しながら、どのように読むか考えたり、なかなか抜けないかぶの大きさを想像したりすることで、物語を楽しんだりしていきたい。

また、本学級には、一斉指導の中で指示が通りにくく、個別支援が必要な児童がいる。文が長くなるとかぎかっこの発言が誰なのか捉えられなくなることも考えられる。場面の状況を捉えるために、絵と言葉を合わせて視覚的に示したり、役割演技でお面を用いて、分担をはっきりするようにしていきたい。

3 研究仮説との関わり

仮説1 「目的意識」をもたせる単元構成や、習得した知識・技能を活用して課題を解決する学習活動を取り入れることで、21世紀を生き抜く力を育てることができる。

- ① 自ら読む力を高めるために「国語のたからもの」を活用して読み方を具体的に指導する。
これまでにも出てきた「」（かぎかっこ）の使い方を確認し、誰が言っている言葉なのかをはっきりさせ、読み進められるようにする。また、このようなお話を「物語」ということを知らせ、今後につなげられるようにしていく。
- ② 自ら「問い」を発見し、解決していく学習活動を設定する。
第1次で物語のおもしろいところを見つけながら読み、その理由を伝え合う。また、どうしてそこを選んだかなど教師からの問いかけをしていくことで、関心を高め、もっと詳しく読みたいという思いをもたせたい。
- ③ 教師の目標（ねらい）と児童の目的（めあて）を区別して設定する。
本単元での教師の目標は、事柄の順序を考えさせながら、登場人物の言動に着目し、想像を広げて読む力を付けさせることである。児童の目的は、登場人物の気持ちを想像し、なりきって役割演技をすることである。登場人物になりきるということは、出来事を正しく理解し、登場人物の言動から様子や気持ちを想像することが大切である。登場人物になりきるという目的の活動を取り入れることで、教師の目標とする物語の読み方を指導することができ、物語を読む力を高めることができると思う。

仮説2 伝え合い活動を効果的に取り入れることで、21世紀を生き抜く力を育てることができる。

- ④ 考えを広げたり深めたりできるような伝え合い活動を授業の中に設定する。
自分の考えに自信をもって伝え合いができるように、ペアでの伝え合い活動を取り入れていく。友達に伝えることでより自分の考えを明確にしていけると考える。その後、全体で考えを発表し、多様な考えがあることに触れていきたい。
- ⑤ 伝え合い活動による自分の考えの変容を、表現するような場を設定する。
ペアでの伝え合い活動を行い、自分の考えと比べて似ているところがあったのか、違っていったのかを考えさせていく。そして、友達の話聞いて交流の最後には、自分の考えに戻り、考えを広げたり、変容を感じたりと考えを深めていきたい。

4 指導計画（全9時間扱い）

次	時	学習のねらい	児童の学習内容と評価
第一次	1	・学習材について興味関心を持ち、進んで音読することができる。	・題名読みをする。 ・かぶはどのような物か話し合う。 ・「おおきなかぶ」の読み聞かせを聞く。 ・登場人物を確認する。 ・繰り返し音読をする。 評 自分の経験と照らし合わせながら、登場人物に関心をもって聞いたり読んだりしている。（関）
	2	・登場人物を捉え、出てくる順序を読み取ることができる。	・おじいさんのしたことを見つける。 ・登場人物の出てくる順を確認し、互いの関係性を図に表す。 ・様子が聞き手に伝わるように、一人読みをしたりペアで互いに読み聞かせたりして、繰り返し音読をする。 評 文をもとに、登場人物同士の関係性を捉えることができる。（読）
	3	・場面の変化に注目しながら、あらすじを捉えることができる。	・前時に行ったかぶを引っぱる登場人物の関係性をもとに、かぶを引っぱった後に、それぞれの場合のかぶがどうだったかを文から言葉を探す。 評 場面の様子について、登場人物がしたことをもとに捉えることができる。（読）

	4	・物語のおもしろいところを見つけながら読むことができる。	・おもしろかったところとその理由を伝え合う。 ・自分や友達の見つけたおもしろいところについて、考えたことを伝え合う。 評 物語のおもしろいところや気になるところを見つけ ている。(読)
第二次	5	・物語のあらすじを捉え、場面の様子を想像しながら読むことができる。	・挿絵の並び替えをしながら、かぶを抜いている様子を 読み取る。 ・おじいさんやおばあさんの気持ちを想像し、役割演技 をしたり吹き出しに書いたりする。 評 おじいさん、おばあさんのしたことを捉え、そのと きの気持ちを想像している。(読)
	6	・物語のあらすじを捉え、場面の様子を想像しながら読むことができる。	・挿絵の並び替えをしながら、かぶを抜いている様子を 読み取る。 ・孫、犬、猫、の気持ちを想像し、役割演技をしたり吹 き出しに書いたりする。 評 犬、猫、ねずみのしたことを捉え、そのときの気持 ちを想像している。(読)
	⑦ 本時	・物語のあらすじを捉え、場面の様子を想像しながら読むことができる。	・挿絵の並び替えをしながら、かぶを抜いている様子を 読み取る。 ・やっとかぶが抜けたときの登場人物の気持ちを想像 し、吹き出しに書く。 評 かぶが抜けた時の様子を読み取り、そのときの気持 ちを想像している。(読)
第三次	8	・台詞を付け足しながら、登場人物の気持ちを劇で表現することができる。	・グループで役割を決め、教科書の台詞に自分の考えた 台詞を付け足して、役割を演じる。 ・台詞に合わせて振りを考えるなどし、そのときの気持 ちを表現できるようにする。 評 物語での役割を考え、なりきって演じようとしてい る。(読)
	9	・劇を発表することができる。	・前時に決めたことをもとに発表を行い、表現の様子を 共有する。 評 役になりきって演じ、その役の気持ちを表現しよう としている。

5 本時の指導（7／9）

（1）目 標

- ・物語のあらすじを捉え、場面の様子を想像しながら読むことができる。

（2）仮説との関わり

仮説2 伝え合い活動を効果的に取り入れることで、21世紀を生き抜く力を育てることができる。

④ 考えを広げたり深めたりできるような交流を授業の中に設定する。

本時では、おじいさんなどの登場人物の気持ちを想像し、伝え合い活動を通して多様な考えに触れていく。始めにペアでの交流を行い、自分の考えを友達に伝えることで、より自分の考えを明確にしていけるようにする。そして、全体での交流を行い、多様な考えがあることに触れていきたい。

（3）展 開

◎印は、仮説との関わり 評（評価） 手（手立て）

学 習 内 容	授 業 の 実 際 と 考 察 実 際 の 児 童 の 様 子	時 配 ()は実際に かかった時間
1 前時の学習を振り返る。	・既習資料を振り返りながら、かぶが抜けずに、おばあさん、孫、犬、猫、ねずみが登場して	4 (5)



2 本時のめあてを確認する。

かぶが抜けたときのみんなの気持ちを考えよう。

3 挿絵を使ったり、動作化を入れたりしながら、かぶが抜けるまでの様子を確認する。



4 やっとかぶが抜けたときに、おじいさんや他の登場人物はどんな気持ちだったかをワークシートに書く。

- ・おじいさんと他の登場人物を一人選んで書けるようにする。

【おじいさん】

- ・やっとかぶが抜けてうれしいな。
- ・こんな大きなかぶをみたことない。
- ・みんなで力を合わせて抜けて、うれしいな。
- ・食べるのが楽しみだな。
- ・なかなか抜けなくて大変だったな。



5 書いたことをもとに、役割演技をする。



きたことを確認した。

- ・前時までに出てきた「それでも」「まだまだ」などに着目し、なかなか抜けないかぶだったことを確認した。

3
(6)

- ・挿絵の並び替えをしながら、登場人物の順序を捉えさせた。
- ・動作化をすることで、場面の様子を具体的に想像できるようにした。

10
(10)

- ・ワークシートの吹き出しに書くことで、おじいさんになりきって、書けるようにした。

10
(7)

- ・かぶがたべられるからうれしいな。
- ・ぬけてうれしいな。
- ・ずっとぬけなかったかぶがぬけてうれしい
- ・やっとなげたぞ。
- ・大きいな。
- ・すごい。ぬけないとおもったのに。
- ・ちからをあわせたら、ぬけた。

- ・おじいさん以外の登場人物からもう一人選び、吹き出しを使って気持ちを書けるようにした。

- ・ぜんいんでひっぱればぬけた。
- ・つかれた。
- ・はやくたべたいな。
- ・ぬけた。
- ・やっとなげてうれしい。

- ・役割演技の仕方を確認した。
- ◎ 始めにペアで役割演技をすることを伝えた。

15
(15)

- ・一人のワークシートを基に、本人がおじいさんで、ペアの児童がはもう一人の役割を行った。終わったら、もう一人の方のワークシートについて同様に、役割演技を行った。ペアの友達のワークシートで役割演技をすることが初めてだったため、子どもたちに戸惑いが見られた。

- ・ペアで行った後、全体で発表をした。
- ・途中、講師による役割演技指導が行われた。

- ◎ ペアや全体で友達の考えを聞くことを通して、自分の考えに付け加えてもよいことを伝えた。



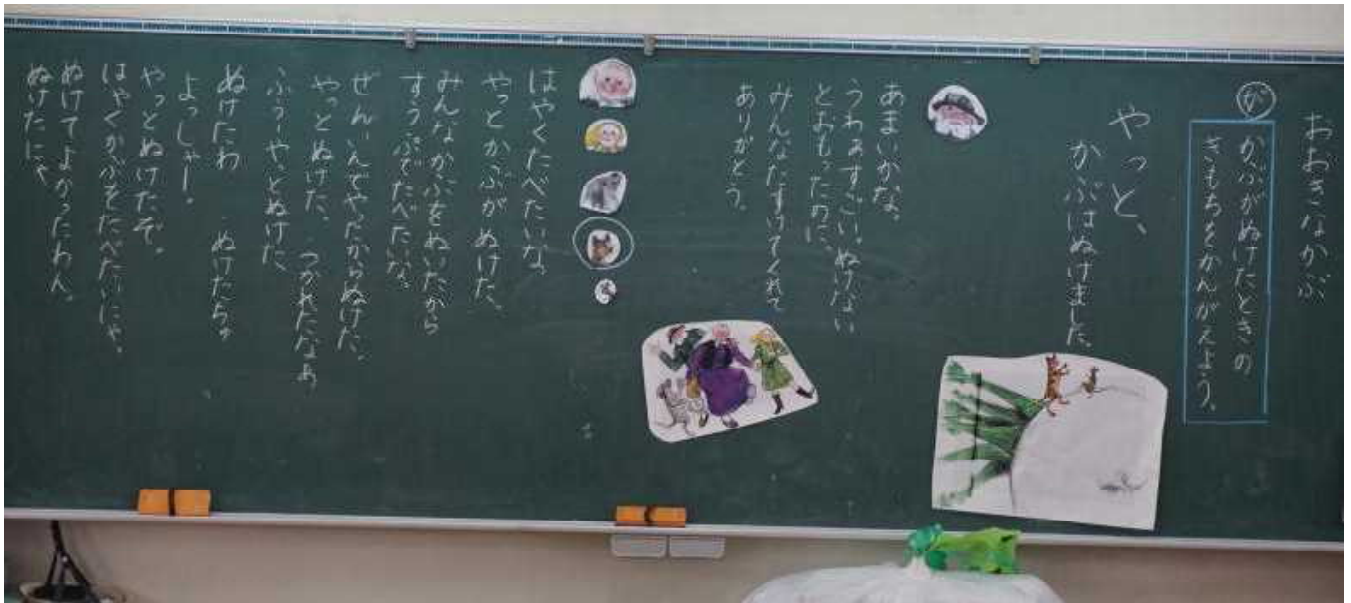
6 次時の学習内容を確認する。

- ・ 発表の最後に、ワークシートに考えを加える時間を設ける予定だったが、行えなかった。評 かぶが抜けたときの様子を捉え、登場人物の気持ちを想像している。
(読) (ワークシート、役割演技)
手 書けた児童の中から役割演技をさせ、書けない児童のヒントになるように助言した。

- ・ これまでの学習の流れを振り返り、役割を決めて劇を行うことを伝えた。

3
(2)

(4) 板書



6 本単元の成果 (○) と課題 (●)

仮説1 「目的意識」をもたせる単元構成や、習得した知識・技能を活用して課題を解決する学習活動を取り入れることで、21世紀を生き抜く力を育てることができる。

- ① 自ら読む力を高めるために「国語のたからもの」を活用して読み方を具体的に指導する。
○ これまでの単元でも「」（かぎかっこ）を意識しながら行ってきたため、発言している人物を考えながら行うことができた。
- これまでに説明文の学習をしたことがなく、「物語」という言葉をこの単元の始めに知らせるよりも、説明文を学習した後知らせたほうが子どもに伝わりやすかった。
- ② 自ら「問い」を発見し、解決していく学習活動を設定する。
○ 自分の気に入った文の文頭にシールを付け、どの部分なのかをはっきりさせた。はっきりさせることで理由を考える手がかりとなった。また、拡大した教科書に付箋を使い、選んだ箇所にも名前を貼った。視覚的に示すことで、友達が興味をもっているところに目を向けるきっかけとなり、関心を高められた。
- ③ 教師の目標（ねらい）と児童の目的（めあて）を区別して設定する。
○ お面を使って、登場人物の気持ちになりきれるように活動を行った。お面をつけることで、子どもたちの中で登場人物を区別して、なりきって気持ちを考えることができた。そして、役割演技を行っていくことで、事柄の順序を考えたり、登場人物の言動に着目し、想像を広げて読んでいくことができた。
- 関心は高まったものの、もっと読みたいという思考までは至らず、今後物語を読む経験をさらにしていく必要があると考えられる。

仮説2 伝え合い活動を効果的に取り入れることで、21世紀を生き抜く力を育てることができる。

- ④ 考えを広げたり深めたりできるような伝え合い活動を授業の中に設定する。
- ⑤ 伝え合い活動による自分の考えの変容を、表現するような場を設定する。
 - ペアでの伝え合い活動を行うことで、自分の考えをはっきりさせることができた。
 - ペアで伝え合うことはできたが、書いてあることのみを話すだけで、深まりへつなげることはできなかった。さらに、自分の考えの変容を書いていく活動は難しかった。発達段階から、まだ、自分の考えを持つ段階であると考えられ、今後、物語を読み深めていく中で、取り入れていけるとよい。



「おおきなかぶ」の劇の発表の様子

拡大した教科書



授業で使用したお面
(土台にクリップで付けるので、付け替え可能にした。)

